

製品安全データシート

会 社：日興製薬株式会社

住 所：岐阜県羽島市上中町一色 467 番 1

担当部門：品質管理部

電話番号：(058)-398-2576

FAX 番号：(058)-398-5863

作成・改訂：2011 年 4 月 1 日

整理番号：

製品名	酢酸	
物質の特定	単一製品・混合物の区別	単一製品
	化学名	酢酸
	化学族	カルボン酸脂肪族
	CAS No.	64-19-7
危険有害性の特定 (氷酢酸として)	主たる危険性	引火性液体、腐食性物質。重度のやけどを引き起こす。
	眼に入った場合	液体または蒸気は重度の障害を与える恐れがある。また、結果として失明することもある。10%より濃い水溶液は重度の結膜炎や角膜障害を引き起こす。
	皮膚に付着した場合	液体に触れると重度のやけどを引き起こす。
	誤飲した場合	口内、食道及び消化器官に損傷を与える恐れがある。
	吸引した場合	15ppm 以上の濃度の蒸気に晒された場合は、鼻腔及び呼吸器官に炎症を起こす恐れがある。さらに高濃度の蒸気は、重度の炎症を鼻腔及び呼吸器官に与える。
応急措置 (氷酢酸として)	眼に入った場合	一刻も早く洗浄を始め、眼に入った製品を完全に洗い流す必要がある。洗眼が遅れたり、不十分だと失明の恐れがある。コンタクトレンズを使用している場合は固着していない限り、取り除いて洗浄する。生理食塩水がすぐ入手できれば使用する。洗浄を中断してはならない。洗眼の際、あまぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄をする。 至急眼科医の手当を受ける。すぐに痛みがなく視力に影響がなくとも障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受ける。 <医師の処置方法> FAD 点眼液、FAD 眼軟膏、抗生物質点眼液等の投与
	皮膚に付着した場合	一刻も早く洗浄を始め、付着した製品を完全に洗い流す必要がある。洗浄が遅れたり不十分だと重度の皮膚障害の恐れがある。汚染された衣服、靴などは多量の水をかけて洗い流しながら速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば衣服を切断する。その後水または微温湯を流しながら最低 20~30 分間、時間を見ながら洗浄する。直ちに医師の手当を受ける。 <医師の処置方法> ステロイド軟膏等の塗布

	誤飲した場合	無理に吐かせようとしてはならない。水でよく口の中を洗わせる。コップ1~2杯の水を飲ませて胃の中の物質を希釈する。(牛乳がすぐ入手できれば水を飲ませた後に与えてもよい。)嘔吐が起こったときは、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。嘔吐後再び水を飲ませる。保温して速やかに医師の手当てを受ける。 <医師の処置方法> 1. 胃洗浄の禁忌 但し後飲後すぐであれば軟らかいチューブを用いて胃洗浄してもよい。 2. 牛乳 200mL の投与 3. 粘膜保護剤、アルロイドG、マーロックス、アルサルミン
	吸入した場合	被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。身体を毛布等で覆い、保温して安静を保つ。もし、呼吸困難な状況であれば、厳密な医師の指導の下でのみ酸素吸入をする。 もし呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣服を緩め呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。但しマウス T0 マウスでは行わない。医師の指示無しに酸素以外の施薬をしたり、被災者に口から物を与えてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。
火災時の措置 (氷酢酸として)	消火剤	ウォータースプレー(霧状水)、耐アルコール泡、粉末消火剤または炭酸ガス
	不適切な消火剤	ウォータージェット(棒状水)
	消火作業時の保護具	消防服を着用し、自給式呼吸装置を身に着ける。
	消火の方法	火災発生場所の周辺には関係者以外の立入りを禁止する。 消火作業の際には自給式呼吸器等の保護具を着用する。 初期消火には水(霧状水)、粉末、炭酸ガスを用いる。 大規模火災の際には、泡(耐アルコール)消火剤を用いて空気を遮断する事が有効である。 ウォータージェット(棒状水)の使用は火災を拡大し危険な場合がある。
漏出時の措置 (氷酢酸として)	人に対する措置	着火源となるすべてのものは速やかに取り除く。 適切な保護具(ケミカルメガネ、ブチルゴム手袋、PVCまたは不浸透性の保護具)及び防毒マスクを身に着ける。 呼吸保護具を用いる。
	環境に対する措置	ドレインや水路に流れ込まないように努力する。 漏洩物や水路や下水道に流れ込んだ場合や汚染された土砂や草木がある場合は現地関係当局に連絡する。
	漏洩物	土砂やその他不活性な物質等に吸着させ、適切な容器に移す。炭酸ソーダ又は重炭酸ソーダにて中和する。最後に、大量の水を用いて洗い流す。
取扱い及び 保管上の注意 (氷酢酸として)	取扱い	換気の良い所にて取扱う。その際蒸気の吸引や、液体の眼、皮膚そして衣服への接触を避ける。非常用の洗眼用及び全身用シャワーは使いやすいく所に設置する。使用しない時は容器はきつく閉めること。

	保管	腐食性なのでポンプ・ガスケットそしてラインの材質の選択には細心の注意が払われるべきである。適切な材質としてはガラス、ポリエチレン、ステンレス、アルミニウム及びその合金がある。ガスケット及びシールにはブチルゴム又は PTFE を用いること。蒸気は濃縮固化しフレイムアレスター（着火防止器）やブリザーバルブの動作を妨げることがある。保管は 20～30℃の範囲で管理すること。パイプラインは加温もしくは十分な断熱材で覆いライン内部にて冷えて凍結しないようにすること。至る所で製品の漏洩が容易に起こりうるので腐食を防ぐために耐酸性のタイルをコンクリートの代わりに用いることを薦める。
暴露管理／ 個人保護用措置 (氷酢酸として)	管理濃度	未設定
	許容濃度	時間加重平均値 (PPM) (mg/m ³) 日本産業衛生学会勧告値 (1996) 10 25 ACGIH (TLV) (1995-6) 10 25
	設備対策	製品への暴露は様々な方法によって制限できる。特定の作業場での適切な措置は製品の取扱われ方や暴露への可能性による。暴露を防ぐ又は制限するような設計が好ましい。作業過程における環境状況の管理や換気設備（局所排気）の導入などが取り入れられるべきである。もし暴露に対する対策が十分でない場合には保護具を用いるべきである。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示しておく。
	呼吸の保護	もし、蒸気に晒される危険のある場合には、有機ガス用防毒マスク・送気マスク・空気呼吸器等を使用する。
	手の保護	ブチルゴム製の手袋を使用する。
	眼の保護	保護眼鏡又は保護マスクを使用する。
	全身保護	もし飛散する可能性のある場合は、PVC もしくはゴム製のブーツ、PVC 又はその他の不浸透性のスーツを身に着けること。
	物理・化学的性質 (氷酢酸として)	外観・臭い
沸点		117.9℃ (@1,013mbar)
融点		16.6℃
引火点 (PMCC)		39℃
爆発範囲		4.0～16.0%
密度 (20℃)		1,049kg/m ³
発火点		463℃
粘度 (20℃)		1.17cSt
蒸気密度 (空気=1)		2.07
蒸発係数 (n-Butac=1)		0.97
安定性及び反応性 (氷酢酸として)	安定性	通常状態下では安定。アルカリと激しく反応する。
	配合禁止	アルカリ、三塩化リン、酸化剤

有害性情報 (氷酢酸として)	急性毒性	経口 LD ₅₀ ラット 3310mg/kg 吸入 LC ₅₀ ラット 16000ppm/4hrs 経皮 LD ₅₀ ウサギ 1060mg/kg
	刺激性－眼	製品は眼に損傷を与える。
	刺激性－皮膚	製品は皮膚に損傷を与える。
	発ガン性	関連する研究報告はされていない。
	慢性毒性	ウサギに 0.5%の水溶液を 9 週間与えつづけたが有害な影響は見られなかった。稀ではあるが寒冷じんましん、鼻づまり、喘息、頭痛のアレルギー症状の原因となることがある。
	変異原性	0.03%酢酸による大腸菌のテストでは、コントロールと有意差がなかったとの報告がある。サルモネラ菌による Ames テストでは陰性を示した。 催奇形性リンゴ酢によるウサギの実験では、妊娠 6 日目から 18 日目までの間、1.6kg/kg・日までの量を投与したが、卵の着床、母獣又は胎仔の生存に顕著な影響はなかったとの報告がある。
生態学的情報 (氷酢酸として)	可動性	製品は不揮発性・可溶性である。
	分解性	容易に分解される。BOD ₅ =51%
	生態毒性	製品は水生動物に対して若干の毒性があると考えられている。 オイカワ（小型淡水魚） 24h LC ₅₀ 251mg/L プルギール 96h LC ₅₀ 75mg/L
廃棄上の注意 (氷酢酸として)	製品の廃棄	焼却。中和し活性を失わせた後埋め立てる。もしくは関連法規に従い廃棄する。焼却の際製品は水と二酸化炭素に分解される。
	容器の廃棄	ラベルは容器が洗浄されるまではがさないこと。容器を切断したり破裂させたりしないこと。容器の近くで溶接作業をしないこと。空き容器の中には可燃性のかすが残っている場合がある。本製品を含む容器（未洗浄）は家庭ごみとして扱われるべきではない。空き容器は適切な方法にて洗浄してから再使用又は廃棄すること。尚、その際現存のラベルはすべて除去すること。空き容器は密閉したままで焼却しないこと。
輸送に関する情報 (氷酢酸として)	輸送	車両等にて運搬する場合は、荷送人は運搬人に輸送注意書を交付することが望ましい。また運搬に際しては容器に漏れがないことを確かめ転倒、落下、損傷がないよう積み荷崩れ防止を確実に行う。火気厳禁
	UN No.	2789
	ADR/RID-Class	8
	ADR/RID-Item No.	32 (b) 2
	ADR/RID-危険特定 No.	83
	IMDG-Packaging Group	II
	IMDG-Class	8
	IMDG-Subsidiary Risks	引火性液体
	IMDG-Marine Pollutant	NO
	IMDG-Ems No.	8-04
	IMDG-MFAG Table No.	700
	IATA-Packaging Group	II
IATA-Class	8	

	IATA-Subsidiary Risks	3
	Tremcard No. TEC(R)	614
規制情報 (氷酢酸として)	労働安全衛生法	令別表第1：危険物（引火性のもの）、腐食性液体
	消防法	第2条 危険物第4類第2石油類 (水溶性液体、指定数量=2000L)
	PRTR 法	本製品は第一種及び第二種指定物質には該当しない。また第一種及び第二種指定化学物質を1%以上含有せず、発ガン性クラス1物質も0.1%以上含有せず。
	港則法	危険物（腐食性物質）
	船舶安全法（危規則）	腐食性物質（R-上・下／上・下等級2）
	海洋汚染防止法	ばら積み運送 有害液体物質（D類物質）
	EINECS No.	2005807
	EC Annex I No.	607-002-00-6
	EC Annex I 分類	腐食性・引火性
	MITI No.	2-688
その他の情報 (氷酢酸として)	危険な物質に附随する リスクの種類	引火性である。重度の火傷を引き起こす。
	危険な化学物質に 関する安全性勧告	鍵をかけ子供の手の届かない所に保管する。ガス／フューム／蒸気／スプレーを吸入してはならない。眼に入った場合、直ちに多量の水で洗い流し医師の診察を受ける。事故が起きた時あるいは気分が悪い場合は直ちに医師の診察を受ける。

* この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。

* ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。

記載内容の問い合わせ先

会 社：日興製薬株式会社

担当部門：品質管理部

電話番号：(058)-398-2576

FAX番号：(058)-398-5863